

新約聖書約翰傳

全

新約聖書卷之四

約翰傳福音書

第一章

元始より言靈あり言靈ハ神とともにより言靈ハ神なり
その言靈ハひとり神とともによりそのものなり
そなれどひとりとのハことありてひとりそなり
一のハなりこれより生あり一のちハ人のひとりなり五光
く暗よりく暗ハことなりそなりそ神のつるれ
ヨハネといふものありそハ證のいふひりにつるそありとたて

みづかきて信ぜしめられん。さればそのひらふ
あはれなるひとにて證となすも、まじりて世
にあらざる人となりたるものなり。
世界よめて世界のこゝろ、世界の人の心とちがへど
このおのれの國の民を救はん。國の民を救はん。

そなたの名と信ぜしめの神の子なる權となさるべし。これハ
血脉にもよく性質にもよい人のことなれば、いかに
神よりてうまれながら言靈人となりて恵とま
しむべきものとせしめられたるその榮光を見

第一章

第一章

イスラエルの民よあゝわれみえんいふは神の御子なり
とて洗禮となすありヨハネ子よ證し
いひけるは我は聖靈たままのたままをて天より降りそ
のうへに降るなりとみりこれこそ神の御子なりと
いふ水みづをて洗禮せんれいとなすなり神の御子なりといふは
聖靈たままくばりてそのうへに降るを見るは聖靈たまま
こそ神の御子なりとみりこれハ神の子
なりと證あかしせりある日ヨハネ子そのごとく
といふは耶穌イエスのありとみて神の羔羊おひつとみて

いふその門徒その人々を以て耶穌よといひたり
耶穌のあひだにみえたりといふ人々を以て
にききしにききしにききしにききしにききしに
と譯バ師と云ふ人々を以て耶穌よといひたり
しときその人々を以て耶穌よといひたり
時ハタなつたりヨハンの人々を以て耶穌よといひたり
—と云ふその人々を以て耶穌よといひたり
と云ふその兄弟シモンと云ふ人々を以て耶穌よといひたり
譯バキリストといふ人々を以て耶穌よといひたり

耶穌はみよきいひけるハ汝ハヨナの子シモンなり汝ハ
 と名づくるれど譯バペテロなり 又ある日 耶穌ガリラヤ
 へいんとピリツポへあひていひけるといふ 聖ピリ
 ツポハアンティオケアのペテロのむすこベツサイダの人なりピリツポナタ
 ナエルはあひていひけるモーセ律法のうちよりといふ 預言
 によりていふなり 又ナザレの耶穌ヨセフの子はあひて
 いふナタナエル善者ナザレよりきくべきなりといふ 聖
 耶穌ナタナエルをのりていふ 耶穌はみよきいひける
 といふ 明白なるまことのイスラエル

の人を^見ナタナエル耶穌よりふーと^{いふ}やと^{いふ}
耶穌よりて^{いふ}ピリウボ^とと^{いふ}に無花果
樹のち^による^とみ^にけ^りと^{いふ}ナタナエルとて
い^ひけ^りと^{いふ}あ^のハ神の子^にスラエルの王^{なる}と^{いふ}耶穌と
て無花果樹のち^に汝^とと^{いふ}い^ひよ^う信^ず
と^{いふ}と^{いふ}い^ひなる^とと^{いふ}と^{いふ}と^{いふ}
と^{いふ}に汝^とと^{いふ}のち^に天^のけ^りて神の^つひ
ち^の子^のと^{いふ}のち^にと^{いふ}と^{いふ}と^{いふ}

第二章

三日めふ加利ヤのカナよおいて婚禮ありけふ耶穌の母
 うふあり耶穌とそのより婚禮「さねれ」よど
 う酒よこかゝめよバ耶穌の母「さねれ」よど
 よどう酒あゝむ耶穌「さねれ」よど
 よおいてなんぞあづらんや「さねれ」よど
 僕どもよれが「さねれ」よど
 「さねれ」よど
 人ヒトの潔キヨメ「さねれ」よど
 四五十の石甕イシバツ六つ
 耶穌と「さねれ」よど
 今「さねれ」よど

150

第三章

ユダヤ人のつゝパリサイのニコデモといふ人ありけり。是夜耶
 穌より起りても。神人とあるがごとく。汝ハ神より起りて
 あり。とて。こゝに。汝ハ神より起りて。とて。汝ハ神より起りて。とて。
 一師なるを。ちりて。いふ。耶穌より起りて。汝より起ん
 人。とて。あるに。うまれ。ぞん。バ。神の國。と。み。る。こと。か。や。す。し。
 といふ。ニコデモ。と。いふ。人。と。も。老。ぬ。ば。い。ふ。こと。と。う。き。う。と。
 と。え。ん。や。あ。ら。び。母。の。こ。に。い。り。て。う。ま。れ。ん。や。五。耶穌より起りて
 ま。る。に。汝より起ん人ハ水と聖靈より起りて。うまれ。ぞん。バ。神
 の國より起りて。か。や。す。し。い。ふ。肉より起りて。うまれ。ぞん。バ。肉より

[illegible]

सुग्रीव

たり人ぐさうて洗禮せんれいとうひり言ことそハヨハ子こ獄ごくは
 けしなるなりまうにヨハ子の門徒もんたとユウダヤ人やうだやじんととよ
 めるにせうてあうそひありまうとヨハ子こはるるて
 いひけるハラビヨロザンのむふは汝なんぢととよにあつて汝なんぢのあつ
 せーものハみよ洗禮せんれいとなとよみふとふがモヨハ子
 うて天てんよりたまふよあうぜんバ人じんうるるとろがハレ
 ハキリストよあうぜんとそのなになにととよのなりと
 いひと證あかしととよのハなんぢらなり元新婦しんぷのあつもの
 新娶しんぐなりとらていふととよ新娶しんぐの友ともハくふむこのを

三

とその手^てまた入り^まて子^こと信^{しん}ぜるものへかゝりたる
あり子^こと信^{しん}ぜるものなりと見^みやど神^{かみ}のしるそのうへ
とぞわたり

第四章

主^{しゅ}パリサイの人^{ひと}が耶穌^{イエス}ヨハネ子^こよりおろくの門徒^{もんた}ととりて洗禮^{せんれい}
とせんとす——あるふれど耶穌^{イエス}みづへちやみづのうへ
して門徒^{もんた}とせんとせむ^しゆ^ゆとユダヤとさうする^{する}ガリラヤと
い^いサマリアとさうする^{する}バナナス^五のころヤコブその子^こヨセフ
とあり——地^ちよりさうする^{する}サマリアのスカルとあり

ヤサの井あり耶穌はひのつれそ井のふらへて堅き
のふハ午刻なりと婦ひとりサマリアより水とくみよ
ふれバ耶穌もにこれよのふをくみよその門徒ハ食物をか
ひよこし（婦はこれなり）とてサマリアのふらへてくみよハ
ハユダヤ人よそなんぞにサマリアのふらへてくみよ
のふをくみよユダヤ人とサマリアのふらへてくみよ
ふなりト耶穌もにこれなりと婦のふらへてくみよ
たふにこれのふをくみよハこれなりと婦はこれ
くみよと水とありとこのふにきく耶穌よりきくハ

[illegible]

高 9 寸

== 2. 目的 ==

[illegible]

हृदय

[illegible]

とうとう癒さるゝと云ふは、
 とうとう熱さるゝと云ふは、
 父ハ耶穌が汝の子と云ふと
 云ふと云ふと云ふと云ふと
 其のまゝ信ぜり音(こゝろ)耶穌云々
 たりたりたりたりたりたり

第五章

そのうちユダヤ人のやうにありけり。バ耶穌アロワルマへのやうに
まゐりニエロソルマの羊門（ヨハネ）のやうにヨヘブライのやうに。そ
ベテスタとよみけり。池（ベサニヤ）の廻廊（パサ）あり。その中（ベサニヤ）は

[illegible]

15

[illegible]

[illegible]

第二卷

第六五

まゝ 耶穌の御名を信じて王に
たてまつるべき人々を
さしだす。門徒は
よびよる。耶穌は
海に
出で、二三里の
ところへ
行かれた。耶穌は
門徒に
言はれた。さう
いふとき、
舟に乗り、
海を渡られた。

[illegible]

唐人書

三ノ子

[illegible]

光
 耶穌カペナオムの會堂に來りて
 門徒を召して曰く我には何を爲すんと思ふや
 耶穌曰く人子は人を食ふには非ず然にはたば
 人の命を活かすにはたばに非ず然にはたば
 人の命を活かすにはたばに非ず然に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家より

第八章

[illegible]

いひて耶穌をあらわすに、
せんやう耶穌ハ身ごちあゆむと
しる畫エジプトより
ぢえりころよき耶穌ちんそく
らふしなむるゑはち石ころま
はさし身ごちあつちと畫エジプト
ぐいゆる年よりまじりて
いでゆり耶穌のころつた
+耶穌おもとんとあつた人とな見
けりといふあやまちありと

[illegible]

育八章

第八卷

一、

志人

[illegible]

第九章

耶穌もろもろにうまれつゝその目もひきまけり。そ
そのでうにうねてひびくハラビゝの人目もひきま

[illegible]

[illegible]

ぞとろろい^{十五}とろろと目^めしひろーのどパリサイ

の人よつと^ありて耶穌を^あら^はせ^しめ^して^しの目とあ^はれ^し。

安息日なり。主の安息日を人々をよむ。

めいあふれーやうーはうーくはふれーちやうー

めいどにまゐりて目あはるるに夫らよ

あるバリのサイの人いひびく人あんそく日とあふふふふふ

よりて神よりにあづかる人ひびくいつこなる人ひ

うゝあゝとくちやうにそのうちよ

なつたひよあまの目あひよのけふは汝のあそ

۱- ...
 ۲- ...
 ۳- ...
 ۴- ...
 ۵- ...
 ۶- ...
 ۷- ...
 ۸- ...
 ۹- ...
 ۱۰- ...

第十章

唐人書

[illegible]

5-1-2

と云ふに死せしむるを 耶穌の死と云ふにザロハ墓と云ふ
 所にて三日あると云ふなり ルカ 二 三 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇 一〇一 一〇二 一〇三 一〇四 一〇五 一〇六 一〇七 一〇八 一〇九 一一〇 一一一 一一二 一一三 一一四 一一五 一一六 一一七 一一八 一一九 一二〇 一二一 一二二 一二三 一二四 一二五 一二六 一二七 一二八 一二九 一三〇 一三一 一三二 一三三 一三四 一三五 一三六 一三七 一三八 一三九 一四〇 一四一 一四二 一四三 一四四 一四五 一四六 一四七 一四八 一四九 一五〇 一五一 一五二 一五三 一五四 一五五 一五六 一五七 一五八 一五九 一六〇 一六一 一六二 一六三 一六四 一六五 一六六 一六七 一六八 一六九 一七〇 一七一 一七二 一七三 一七四 一七五 一七六 一七七 一七八 一七九 一八〇 一八一 一八二 一八三 一八四 一八五 一八六 一八七 一八八 一八九 一九〇 一九一 一九二 一九三 一九四 一九五 一九六 一九七 一九八 一九九 二〇〇 二〇一 二〇二 二〇三 二〇四 二〇五 二〇六 二〇七 二〇八 二〇九 二一〇 二一一 二一二 二一三 二一四 二一五 二一六 二一七 二一八 二一九 二二〇 二二一 二二二 二二三 二二四 二二五 二二六 二二七 二二八 二二九 二三〇 二三一 二三二 二三三 二三四 二三五 二三六 二三七 二三八 二三九 二四〇 二四一 二四二 二四三 二四四 二四五 二四六 二四七 二四八 二四九 二五〇 二五一 二五二 二五三 二五四 二五五 二五六 二五七 二五八 二五九 二六〇 二六一 二六二 二六三 二六四 二六五 二六六 二六七 二六八 二六九 二七〇 二七一 二七二 二七三 二七四 二七五 二七六 二七七 二七八 二七九 二八〇 二八一 二八二 二八三 二八四 二八五 二八六 二八七 二八八 二八九 二九〇 二九一 二九二 二九三 二九四 二九五 二九六 二九七 二九八 二九九 三〇〇 三〇一 三〇二 三〇三 三〇四 三〇五 三〇六 三〇七 三〇八 三〇九 三一〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇 一〇一 一〇二 一〇三 一〇四 一〇五 一〇六 一〇七 一〇八 一〇九 一一〇 一一一 一一二 一一三 一一四 一一五 一一六 一一七 一一八 一一九 一二〇 一二一 一二二 一二三 一二四 一二五 一二六 一二七 一二八 一二九 一三〇 一三一 一三二 一三三 一三四 一三五 一三六 一三七 一三八 一三九 一四〇 一四一 一四二 一四三 一四四 一四五 一四六 一四七 一四八 一四九 一五〇 一五一 一五二 一五三 一五四 一五五 一五六 一五七 一五八 一五九 一六〇 一六一 一六二 一六三 一六四 一六五 一六六 一六七 一六八 一六九 一七〇 一七一 一七二 一七三 一七四 一七五 一七六 一七七 一七八 一七九 一八〇 一八一 一八二 一八三 一八四 一八五 一八六 一八七 一八八 一八九 一九〇 一九一 一九二 一九三 一九四 一九五 一九六 一九七 一九八 一九九 <

五二七

三

フリヤと云ふにヨウダヤ人耶穌のサマリア人と
 おろくハムと信ぢるものと其のうちにパリサイの人と
 ゆゑて耶穌のサマリア人のうち祭司のサマリア
 といふパリサイの人と評議せしめりといふこと
 といふ人といふこと——ヨウダヤ人のサマリア人の
 といふ人——ヨウダヤ人のサマリア人のサマリア
 の人といふ信ぢるものとヨウダヤ人のサマリア
 といふ人と國だといふことといふこと——ヨウ
 の祭司のサマリア人のサマリア人のサマリア

第十二章

[illegible]

まはしめしむらラザロよなんぞてさうねく+祭司のまへ
 からラザロよまじいさんとはれくらザロより
 ておろくのユダヤ人ゆゑに耶穌と信ぜしめたり士
 翌日もうけにいりひそぐ耶穌エロソルマよこころ
 とする主檣欄のえびきりゆゑにまじふもホサナ
 よ主の名によりてさうなるイスラエルの王ハなるべしとよ
 むる^主 耶穌驢馬の子とえてこしよのまじ^主
 のむぎあおそろふまじいなんぢの王ハ驢馬の子よつて
 まじいこころをなすべしとのぞくぞあいの

五二五

[illegible]

卷一百一十五

[illegible]

[illegible]

されり 耶穌父ハ其の手にて我らに命を授けり
 神の御子神の御子 夕食の御子ハ
 着せ給ふ我れに命を授けり 鹽
 水にて門徒の我れに命を授けり 手
 にて我れに命を授けり テロ 耶穌
 い びに主の我れに命を授けり 耶穌
 の 命を授けり 命を授けり 命を授けり
 テロ 命を授けり 命を授けり 命を授けり
 耶穌 命を授けり 命を授けり 命を授けり

あつて、^{（一）} 関係するものがある。

（二） 関係するものがある。

（三） 関係するものがある。

（四） 関係するものがある。

（五） 関係するものがある。

（六） 関係するものがある。

（七） 関係するものがある。

（八） 関係するものがある。

（九） 関係するものがある。

五七

聖書

踵

信

キリスト

耶穌

耶穌

耶穌

耶穌

耶穌

考一三

主は我々に御霊を賜はれしを以て
 我々も御霊を賜はるべしと信ぜり
 主は我々に御霊を賜はれしを以て
 我々も御霊を賜はるべしと信ぜり
 主は我々に御霊を賜はれしを以て
 我々も御霊を賜はるべしと信ぜり
 主は我々に御霊を賜はれしを以て
 我々も御霊を賜はるべしと信ぜり

第十四章

主は我々に御霊を賜はれしを以て
 我々も御霊を賜はるべしと信ぜり
 主は我々に御霊を賜はれしを以て
 我々も御霊を賜はるべしと信ぜり
 主は我々に御霊を賜はれしを以て
 我々も御霊を賜はるべしと信ぜり

三
五
二
日
五

ط^١ الخ^٢ م^٣ ر^٤ س^٥ ط^٦ — ح^٧ ك^٨ ل^٩ ط^{١٠} (ه^{١١} ص^{١٢} ر^{١٣} س^{١٤} ك^{١٥} ل^{١٦} ط^{١٧} — ل^{١٨} ر^{١٩} س^{٢٠} م^{٢١} ر^{٢٢} ه^{٢٣} ص^{٢٤} ك^{٢٥} ل^{٢٦} ط^{٢٧} —
ط^{٢٨} ل^{٢٩} ر^{٣٠} س^{٣١} م^{٣٢} ر^{٣٣} ه^{٣٤} ص^{٣٥} ك^{٣٦} ل^{٣٧} ط^{٣٨} — ل^{٣٩} ر^{٤٠} س^{٤١} م^{٤٢} ر^{٤٣} ه^{٤٤} ص^{٤٥} ك^{٤٦} ل^{٤٧} ط^{٤٨} —
ط^{٤٩} ل^{٥٠} ر^{٥١} س^{٥٢} م^{٥٣} ر^{٥٤} ه^{٥٥} ص^{٥٦} ك^{٥٧} ل^{٥٨} ط^{٥٩} — ل^{٦٠} ر^{٦١} س^{٦٢} م^{٦٣} ر^{٦٤} ه^{٦٥} ص^{٦٦} ك^{٦٧} ل^{٦٨} ط^{٦٩} —
ط^{٧٠} ل^{٧١} ر^{٧٢} س^{٧٣} م^{٧٤} ر^{٧٥} ه^{٧٦} ص^{٧٧} ك^{٧٨} ل^{٧٩} ط^{٨٠} — ل^{٨١} ر^{٨٢} س^{٨٣} م^{٨٤} ر^{٨٥} ه^{٨٦} ص^{٨٧} ك^{٨٨} ل^{٨٩} ط^{٩٠} —
ط^{٩١} ل^{٩٢} ر^{٩٣} س^{٩٤} م^{٩٥} ر^{٩٦} ه^{٩٧} ص^{٩٨} ك^{٩٩} ل^{١٠٠} ط^{١٠١} — ل^{١٠٢} ر^{١٠٣} س^{١٠٤} م^{١٠٥} ر^{١٠٦} ه^{١٠٧} ص^{١٠٨} ك^{١٠٩} ل^{١١٠} ط^{١١١} —
ط^{١١٢} ل^{١١٣} ر^{١١٤} س^{١١٥} م^{١١٦} ر^{١١٧} ه^{١١٨} ص^{١١٩} ك^{١٢٠} ل^{١٢١} ط^{١٢٢} — ل^{١٢٣} ر^{١٢٤} س^{١٢٥} م^{١٢٦} ر^{١٢٧} ه^{١٢٨} ص^{١٢٩} ك^{١٣٠} ل^{١٣١} ط^{١٣٢} —
ط^{١٣٣} ل^{١٣٤} ر^{١٣٥} س^{١٣٦} م^{١٣٧} ر^{١٣٨} ه^{١٣٩} ص^{١٤٠} ك^{١٤١} ل^{١٤٢} ط^{١٤٣} — ل^{١٤٤} ر^{١٤٥} س^{١٤٦} م^{١٤٧} ر^{١٤٨} ه^{١٤٩} ص^{١٥٠} ك^{١٥١} ل^{١٥٢} ط^{١٥٣} —
ط^{١٥٤} ل^{١٥٥} ر^{١٥٦} س^{١٥٧} م^{١٥٨} ر^{١٥٩} ه^{١٦٠} ص^{١٦١} ك^{١٦٢} ل^{١٦٣} ط^{١٦٤} — ل^{١٦٥} ر^{١٦٦} س^{١٦٧} م^{١٦٨} ر^{١٦٩} ه^{١٧٠} ص^{١٧١} ك^{١٧٢} ل^{١٧٣} ط^{١٧٤} —
ط^{١٧٥} ل^{١٧٦} ر^{١٧٧} س^{١٧٨} م^{١٧٩} ر^{١٨٠} ه^{١٨١} ص^{١٨٢} ك^{١٨٣} ل^{١٨٤} ط^{١٨٥} — ل^{١٨٦} ر^{١٨٧} س^{١٨٨} م^{١٨٩} ر^{١٩٠} ه^{١٩١} ص^{١٩٢} ك^{١٩٣} ل^{١٩٤} ط^{١٩٥} —
ط^{١٩٦} ل^{١٩٧} ر^{١٩٨} س^{١٩٩} م^{٢٠٠} ر^{٢٠١} ه^{٢٠٢} ص^{٢٠٣} ك^{٢٠٤} ل^{٢٠٥} ط^{٢٠٦} — ل^{٢٠٧} ر^{٢٠٨} س^{٢٠٩} م^{٢١٠} ر^{٢١١} ه^{٢١٢} ص^{٢١٣} ك^{٢١٤} ل^{٢١٥} ط^{٢١٦} —
ط^{٢١٧} ل^{٢١٨} ر^{٢١٩} س^{٢٢٠} م^{٢٢١} ر^{٢٢٢} ه^{٢٢٣} ص^{٢٢٤} ك^{٢٢٥} ل^{٢٢٦} ط^{٢٢٧} — ل^{٢٢٨} ر^{٢٢٩} س^{٢٣٠} م^{٢٣١} ر^{٢٣٢} ه^{٢٣٣} ص^{٢٣٤} ك^{٢٣٥} ل^{٢٣٦} ط^{٢٣٧} —
ط^{٢٣٩} ل^{٢٤٠} ر^{٢٤١} س^{٢٤٢} م^{٢٤٣} ر^{٢٤٤} ه^{٢٤٥} ص^{٢٤٦} ك^{٢٤٧} ل^{٢٤٨} ط^{٢٤٩} — ل^{٢٥١} ر^{٢٥٢} س^{٢٥٣} م^{٢٥٤} ر^{٢٥٥} ه^{٢٥٦} ص^{٢٥٧} ك^{٢٥٨} ل^{٢٥٩} ط^{٢٦٠} —
ط^{٢٦٢} ل^{٢٦٣} ر^{٢٦٤} س^{٢٦٥} م^{٢٦٦} ر^{٢٦٧} ه^{٢٦٨} ص^{٢٦٩} ك^{٢٧٠} ل^{٢٧١} ط^{٢٧٢} — ل^{٢٧٣} ر^{٢٧٤} س^{٢٧٥} م^{٢٧٦} ر^{٢٧٧} ه^{٢٧٨} ص^{٢٧٩} ك^{٢٨٠} ل^{٢٨١} ط^{٢٨٢} —
ط^{٢٨٣} ل^{٢٨٤} ر^{٢٨٥} س^{٢٨٦} م^{٢٨٧} ر^{٢٨٨} ه^{٢٨٩} ص^{٢٩٠} ك^{٢٩١} ل^{٢٩٢} ط^{٢٩٣} — ل^{٢٩٥} ر^{٢٩٦} س^{٢٩٧} م^{٢٩٨} ر^{٢٩٩} ه^{٣٠٠} ص^{٣٠١} ك^{٣٠٢} ل^{٣٠٣} ط^{٣٠٤} —
ط^{٣٠٥} ل^{٣٠٦} ر^{٣٠٧} س^{٣٠٨} م^{٣٠٩} ر^{٣١٠} ه^{٣١١} ص^{٣١٢} ك^{٣١٣} ل^{٣١٤} ط^{٣١٥} — ل^{٣١٦} ر^{٣١٧} س^{٣١٨} م^{٣١٩} ر^{٣٢٠} ه^{٣٢١} ص^{٣٢٢} ك^{٣٢٣} ل^{٣٢٤} ط^{٣٢٥} —
ط^{٣٢٦} ل^{٣٢٧} ر^{٣٢٨} س^{٣٢٩} م^{٣٣٠} ر^{٣٣١} ه^{٣٣٢} ص^{٣٣٣} ك^{٣٣٤} ل^{٣٣٥} ط^{٣٣٦} — ل^{٣٣٧} ر^{٣٣٨} س^{٣٣٩} م^{٣٤٠} ر^{٣٤١} ه^{٣٤٢} ص^{٣٤٣} ك^{٣٤٤} ل^{٣٤٥} ط^{٣٤٦} —
ط^{٣٤٧} ل^{٣٤٨} ر^{٣٤٩} س^{٣٥٠} م^{٣٥١} ر^{٣٥٢} ه^{٣٥٣} ص^{٣٥٤} ك^{٣٥٥} ل^{٣٥٦} ط^{٣٥٧} — ل^{٣٥٩} ر^{٣٦٠} س^{٣٦١} م^{٣٦٢} ر^{٣٦٣} ه^{٣٦٤} ص^{٣٦٥} ك^{٣٦٦} ل^{٣٦٧} ط^{٣٦٨} —
ط^{٣٦٩} ل^{٣٧٠} ر^{٣٧١} س^{٣٧٢} م^{٣٧٣} ر^{٣٧٤} ه^{٣٧٥} ص^{٣٧٦} ك^{٣٧٧} ل^{٣٧٨} ط^{٣٧٩} — ل^{٣٨١} ر^{٣٨٢} س^{٣٨٣} م^{٣٨٤} ر^{٣٨٥} ه^{٣٨٦} ص^{٣٨٧} ك^{٣٨٨} ل^{٣٨٩} ط^{٣٩٠} —
ط^{٣٩١} ل^{٣٩٢} ر^{٣٩٣} س^{٣٩٤} م^{٣٩٥} ر^{٣٩٦} ه^{٣٩٧} ص^{٣٩٨} ك^{٣٩٩} ل^{٤٠٠} ط^{٤٠١} — ل^{٤٠٣} ر^{٤٠٤} س^{٤٠٥} م^{٤٠٦} ر^{٤٠٧} ه^{٤٠٨} ص^{٤٠٩} ك^{٤١٠} ل^{٤١١} ط^{٤١٢} —
ط^{٤١٣} ل^{٤١٤} ر^{٤١٥} س^{٤١٦} م^{٤١٧} ر^{٤١٨} ه^{٤١٩} ص^{٤٢٠} ك^{٤٢١} ل^{٤٢٢} ط^{٤٢٣} — ل^{٤٢٥} ر^{٤٢٦} س^{٤٢٧} م^{٤٢٨} ر^{٤٢٩} ه^{٤٣٠} ص^{٤٣١} ك^{٤٣٢} ل^{٤٣٣} ط^{٤٣٤} —
ط^{٤٣٥} ل^{٤٣٦} ر^{٤٣٧} س^{٤٣٨} م^{٤٣٩} ر^{٤٤٠} ه^{٤٤١} ص^{٤٤٢} ك^{٤٤٣} ل^{٤٤٤} ط^{٤٤٥} — ل^{٤٤٧} ر^{٤٤٨} س^{٤٤٩} م^{٤٥٠} ر^{٤٥١} ه^{٤٥٢} ص^{٤٥٣} ك^{٤٥٤} ل^{٤٥٥} ط^{٤٥٦} —
ط^{٤٥٧} ل^{٤٥٨} ر^{٤٥٩} س^{٤٦٠} م^{٤٦١} ر^{٤٦٢} ه^{٤٦٣} ص^{٤٦٤} ك^{٤٦٥} ل^{٤٦٦} ط^{٤٦٧} — ل^{٤٦٩} ر^{٤٧٠} س^{٤٧١} م^{٤٧٢} ر^{٤٧٣} ه^{٤٧٤} ص^{٤٧٥} ك^{٤٧٦} ل^{٤٧٧} ط^{٤٧٨} —
ط^{٤٧٩} ل^{٤٨٠} ر^{٤٨١} س^{٤٨٢} م^{٤٨٣} ر^{٤٨٤} ه^{٤٨٥} ص^{٤٨٦} ك^{٤٨٧} ل^{٤٨٨} ط^{٤٨٩} — ل^{٤٩١} ر^{٤٩٢} س^{٤٩٣} م^{٤٩٤} ر^{٤٩٥} ه^{٤٩٦} ص^{٤٩٧} ك^{٤٩٨} ل^{٤٩٩} ط^{٥٠٠} —
ط^{٥٠١} ل^{٥٠٢} ر^{٥٠٣} س^{٥٠٤} م^{٥٠٥} ر^{٥٠٦} ه^{٥٠٧} ص^{٥٠٨} ك^{٥٠٩} ل^{٥١٠} ط^{٥١١} — ل^{٥١٣} ر^{٥١٤} س^{٥١٥} م^{٥١٦} ر^{٥١٧} ه^{٥١٨} ص^{٥١٩} ك^{٥٢٠} ل^{٥٢١} ط^{٥٢٢} —
ط^{٥٢٣} ل^{٥٢٤} ر^{٥٢٥} س^{٥٢٦} م^{٥٢٧} ر^{٥٢٨} ه^{٥٢٩} ص^{٥٣٠} ك^{٥٣١} ل^{٥٣٢} ط^{٥٣٣} — ل^{٥٣٥} ر^{٥٣٦} س^{٥٣٧} م^{٥٣٨} ر^{٥٣٩} ه^{٥٤٠} ص^{٥٤١} ك^{٥٤٢} ل^{٥٤٣} ط^{٥٤٤} —
ط^{٥٤٥} ل^{٥٤٦} ر^{٥٤٧} س^{٥٤٨} م^{٥٤٩} ر^{٥٥٠} ه^{٥٥١} ص^{٥٥٢} ك^{٥٥٣} ل^{٥٥٤} ط^{٥٥٥} — ل^{٥٥٧} ر^{٥٥٨} س^{٥٥٩} م^{٥٦٠} ر^{٥٦١} ه^{٥٦٢} ص^{٥٦٣} ك^{٥٦٤} ل^{٥٦٥} ط^{٥٦٦} —
ط^{٥٦٧} ل^{٥٦٨} ر^{٥٦٩} س^{٥٧٠} م^{٥٧١} ر^{٥٧٢} ه^{٥٧٣} ص^{٥٧٤} ك^{٥٧٥} ل^{٥٧٦} ط^{٥٧٧} — ل^{٥٧٩} ر^{٥٨٠} س^{٥٨١} م^{٥٨٢} ر^{٥٨٣} ه^{٥٨٤} ص^{٥٨٥} ك^{٥٨٦} ل^{٥٨٧} ط^{٥٨٨} —
ط^{٥٨٩} ل^{٥٩٠} ر^{٥٩١} س^{٥٩٢} م^{٥٩٣} ر^{٥٩٤} ه^{٥٩٥} ص^{٥٩٦} ك^{٥٩٧} ل^{٥٩٨} ط^{٥٩٩} — ل^{٦٠١} ر^{٦٠٢} س^{٦٠٣} م^{٦٠٤} ر^{٦٠٥} ه^{٦٠٦} ص^{٦٠٧} ك^{٦٠٨} ل^{٦٠٩} ط^{٦١٠} —
ط^{٦١١} ل^{٦١٢} ر^{٦١٣} س^{٦١٤} م^{٦١٥} ر^{٦١٦} ه^{٦١٧} ص^{٦١٨} ك^{٦١٩} ل^{٦٢٠} ط^{٦٢١} — ل^{٦٢٣} ر^{٦٢٤} س^{٦٢٥} م^{٦٢٦} ر^{٦٢٧} ه^{٦٢٨} ص^{٦٢٩} ك^{٦٣٠} ل^{٦٣١} ط^{٦٣٢} —
ط^{٦٣٣} ل^{٦٣٤} ر^{٦٣٥} س^{٦٣٦} م^{٦٣٧} ر^{٦٣٨} ه^{٦٣٩} ص^{٦٤٠} ك^{٦٤١} ل^{٦٤٢} ط^{٦٤٣} — ل^{٦٤٥} ر^{٦٤٦} س^{٦٤٧} م^{٦٤٨} ر^{٦٤٩} ه^{٦٥٠} ص^{٦٥١} ك^{٦٥٢} ل^{٦٥٣} ط^{٦٥٤} —
ط^{٦٥٥} ل^{٦٥٦} ر^{٦٥٧} س^{٦٥٨} م^{٦٥٩} ر^{٦٦٠} ه^{٦٦١} ص^{٦٦٢} ك^{٦٦٣} ل^{٦٦٤} ط^{٦٦٥} — ل^{٦٦٧} ر^{٦٦٨} س^{٦٦٩} م^{٦٧٠} ر^{٦٧١} ه^{٦٧٢} ص^{٦٧٣} ك^{٦٧٤} ل^{٦٧٥} ط^{٦٧٦} —
ط^{٦٧٧} ل^{٦٧٨} ر^{٦٧٩} س^{٦٨٠} م^{٦٨١} ر^{٦٨٢} ه^{٦٨٣} ص^{٦٨٤} ك^{٦٨٥} ل^{٦٨٦} ط^{٦٨٧} — ل^{٦٨٩} ر^{٦٩٠} س^{٦٩١} م^{٦٩٢} ر^{٦٩٣} ه^{٦٩٤} ص^{٦٩٥} ك^{٦٩٦} ل^{٦٩٧} ط^{٦٩٨} —
ط^{٦٩٩} ل^{٧٠٠} ر^{٧٠١} س^{٧٠٢} م^{٧٠٣} ر^{٧٠٤} ه^{٧٠٥} ص^{٧٠٦} ك^{٧٠٧} ل^{٧٠٨} ط^{٧٠٩} — ل^{٧١١} ر^{٧١٢} س^{٧١٣} م^{٧١٤} ر^{٧١٥} ه^{٧١٦} ص^{٧١٧} ك^{٧١٨} ل^{٧١٩} ط^{٧٢٠} —
ط^{٧٢١} ل^{٧٢٢} ر^{٧٢٣} س^{٧٢٤} م^{٧٢٥} ر^{٧٢٦} ه^{٧٢٧} ص^{٧٢٨} ك^{٧٢٩} ل^{٧٣٠} ط^{٧٣١} — ل^{٧٣٣} ر^{٧٣٤} س^{٧٣٥} م^{٧٣٦} ر^{٧٣٧} ه^{٧٣٨} ص^{٧٣٩} ك^{٧٤٠} ل^{٧٤١} ط^{٧٤٢} —
ط^{٧٤٣} ل^{٧٤٤} ر^{٧٤٥} س^{٧٤٦} م^{٧٤٧} ر^{٧٤٨} ه^{٧٤٩} ص^{٧٥٠} ك^{٧٥١} ل^{٧٥٢} ط^{٧٥٣} — ل^{٧٥٥} ر^{٧٥٦} س^{٧٥٧} م^{٧٥٨} ر^{٧٥٩} ه^{٧٦٠} ص^{٧٦١} ك^{٧٦٢} ل^{٧٦٣} ط^{٧٦٤} —
ط^{٧٦٥} ل^{٧٦٦} ر^{٧٦٧} س^{٧٦٨} م^{٧٦٩} ر^{٧٧٠} ه^{٧٧١} ص^{٧٧٢} ك^{٧٧٣} ل^{٧٧٤} ط^{٧٧٥} — ل^{٧٧٧} ر^{٧٧٨} س^{٧٧٩} م^{٧٨٠} ر^{٧٨١} ه^{٧٨٢} ص^{٧٨٣} ك^{٧٨٤} ل^{٧٨٥} ط^{٧٨٦} —
ط^{٧٨٧} ل^{٧٨٨} ر^{٧٨٩} س^{٧٩٠} م^{٧٩١} ر^{٧٩٢} ه^{٧٩٣} ص^{٧٩٤} ك^{٧٩٥} ل^{٧٩٦} ط^{٧٩٧} — ل^{٧٩٩} ر^{٨٠٠} س^{٨٠١} م^{٨٠٢} ر^{٨٠٣} ه^{٨٠٤} ص^{٨٠٥} ك^{٨٠٦} ل^{٨٠٧} ط^{٨٠٨} —
ط^{٨٠٩} ل^{٨١٠} ر^{٨١١} س^{٨١٢} م^{٨١٣} ر^{٨١٤} ه^{٨١٥} ص^{٨١٦} ك^{٨١٧} ل^{٨١٨} ط^{٨١٩} — ل^{٨٢١} ر^{٨٢٢} س^{٨٢٣} م^{٨٢٤} ر^{٨٢٥} ه^{٨٢٦} ص^{٨٢٧} ك^{٨٢٨} ل^{٨٢٩} ط^{٨٣٠} —
ط^{٨٣١} ل^{٨٣٢} ر^{٨٣٣} س^{٨٣٤} م^{٨٣٥} ر^{٨٣٦} ه^{٨٣٧} ص^{٨٣٨} ك^{٨٣٩} ل^{٨٤٠} ط^{٨٤١} — ل^{٨٤٣} ر^{٨٤٤} س^{٨٤٥} م^{٨٤٦} ر^{٨٤٧} ه^{٨٤٨} ص^{٨٤٩} ك^{٨٥٠} ل^{٨٥١} ط^{٨٥٢} —
ط^{٨٥٣} ل^{٨٥٤} ر^{٨٥٥} س^{٨٥٦} م^{٨٥٧} ر^{٨٥٨} ه^{٨٥٩} ص^{٨٦٠} ك^{٨٦١} ل^{٨٦٢} ط^{٨٦٣} — ل^{٨٦٥} ر^{٨٦٦} س^{٨٦٧} م^{٨٦٨} ر^{٨٦٩} ه^{٨٧٠} ص^{٨٧١} ك^{٨٧٢} ل^{٨٧٣} ط^{٨٧٤} —
ط^{٨٧٥} ل^{٨٧٦} ر^{٨٧٧} س^{٨٧٨} م^{٨٧٩} ر^{٨٨٠} ه^{٨٨١} ص^{٨٨٢} ك^{٨٨٣} ل^{٨٨٤} ط^{٨٨٥} — ل^{٨٨٧} ر^{٨٨٨} س^{٨٨٩} م^{٨٩٠} ر^{٨٩١} ه^{٨٩٢} ص^{٨٩٣} ك^{٨٩٤} ل^{٨٩٥} ط^{٨٩٦} —
ط^{٨٩٧} ل^{٨٩٨} ر^{٨٩٩} س^{٩٠٠} م^{٩٠١} ر^{٩٠٢} ه^{٩٠٣} ص^{٩٠٤} ك^{٩٠٥} ل^{٩٠٦} ط^{٩٠٧} — ل^{٩٠٩} ر^{٩١٠} س^{٩١١} م^{٩١٢} ر^{٩١٣} ه^{٩١٤} ص^{٩١٥} ك^{٩١٦} ل^{٩١٧} ط^{٩١٨} —
ط^{٩١٩} ل^{٩٢٠} ر^{٩٢١} س^{٩٢٢} م^{٩٢٣} ر^{٩٢٤} ه^{٩٢٥} ص^{٩٢٦} ك^{٩٢٧} ل^{٩٢٨} ط^{٩٢٩} — ل^{٩٣١} ر^{٩٣٢} س^{٩٣٣} م^{٩٣٤} ر^{٩٣٥} ه^{٩٣٦} ص^{٩٣٧} ك^{٩٣٨} ل^{٩٣٩} ط^{٩٤٠} —
ط^{٩٤١} ل^{٩٤٢} ر^{٩٤٣} س^{٩٤٤} م^{٩٤٥} ر^{٩٤٦} ه^{٩٤٧} ص^{٩٤٨} ك^{٩٤٩} ل^{٩٥٠} ط^{٩٥١} — ل^{٩٥٣} ر^{٩٥٤} س^{٩٥٥} م^{٩٥٦} ر^{٩٥٧} ه^{٩٥٨} ص^{٩٥٩} ك^{٩٦٠} ل^{٩٦١} ط^{٩٦٢} —
ط^{٩٦٣} ل^{٩٦٤} ر^{٩٦٥} س^{٩٦٦} م^{٩٦٧} ر^{٩٦٨} ه^{٩٦٩} ص^{٩٧٠} ك^{٩٧١} ل^{٩٧٢} ط^{٩٧٣} — ل^{٩٧٥} ر^{٩٧٦} س^{٩٧٧} م^{٩٧٨} ر^{٩٧٩} ه^{٩٨٠}

[illegible]

ベ
星
父
よ
ゆ
ふ
て
ち
き
り
な
く
な
ん
ぢ
り
に

[illegible]

たまたま、道ハあらうもの聖靈あり世に

[illegible]

んぢうふさあにやんぢうとらぬにきりつやん

ぢうのうちよあゝんゆゑあり大つ道はんぢうをきく

多子とせんとてなんぢよりふりて
 一先ちぞく

一世を過せんとて
なれどなんぢを
あはれむ

いさばなんぢより
その日よりハダ

[illegible]

۱- سب سے زیادہ اہمیت رکھنے والی چیزیں
 ۲- سب سے زیادہ اہمیت رکھنے والی چیزیں
 ۳- سب سے زیادہ اہمیت رکھنے والی چیزیں
 ۴- سب سے زیادہ اہمیت رکھنے والی چیزیں
 ۵- سب سے زیادہ اہمیت رکھنے والی چیزیں
 ۶- سب سے زیادہ اہمیت رکھنے والی چیزیں
 ۷- سب سے زیادہ اہمیت رکھنے والی چیزیں
 ۸- سب سے زیادہ اہمیت رکھنے والی چیزیں
 ۹- سب سے زیادہ اہمیت رکھنے والی چیزیں
 ۱۰- سب سے زیادہ اہمیت رکھنے والی چیزیں

それよりおとこにふくむべきことありて命を
いふは女にふくむべきことありて命を
いふは女にふくむべきことありて命を
いふは女にふくむべきことありて命を
いふは女にふくむべきことありて命を
いふは女にふくむべきことありて命を
いふは女にふくむべきことありて命を
いふは女にふくむべきことありて命を
いふは女にふくむべきことありて命を
いふは女にふくむべきことありて命を

۱۹۱۱
 ۱۹۱۲
 ۱۹۱۳
 ۱۹۱۴
 ۱۹۱۵
 ۱۹۱۶
 ۱۹۱۷
 ۱۹۱۸
 ۱۹۱۹
 ۱۹۲۰
 ۱۹۲۱
 ۱۹۲۲
 ۱۹۲۳
 ۱۹۲۴
 ۱۹۲۵
 ۱۹۲۶
 ۱۹۲۷
 ۱۹۲۸
 ۱۹۲۹
 ۱۹۳۰
 ۱۹۳۱
 ۱۹۳۲
 ۱۹۳۳
 ۱۹۳۴
 ۱۹۳۵
 ۱۹۳۶
 ۱۹۳۷
 ۱۹۳۸
 ۱۹۳۹
 ۱۹۴۰
 ۱۹۴۱
 ۱۹۴۲
 ۱۹۴۳
 ۱۹۴۴
 ۱۹۴۵
 ۱۹۴۶
 ۱۹۴۷
 ۱۹۴۸
 ۱۹۴۹
 ۱۹۵۰
 ۱۹۵۱
 ۱۹۵۲
 ۱۹۵۳
 ۱۹۵۴
 ۱۹۵۵
 ۱۹۵۶
 ۱۹۵۷
 ۱۹۵۸
 ۱۹۵۹
 ۱۹۶۰
 ۱۹۶۱
 ۱۹۶۲
 ۱۹۶۳
 ۱۹۶۴
 ۱۹۶۵
 ۱۹۶۶
 ۱۹۶۷
 ۱۹۶۸
 ۱۹۶۹
 ۱۹۷۰
 ۱۹۷۱
 ۱۹۷۲
 ۱۹۷۳
 ۱۹۷۴
 ۱۹۷۵
 ۱۹۷۶
 ۱۹۷۷
 ۱۹۷۸
 ۱۹۷۹
 ۱۹۸۰
 ۱۹۸۱
 ۱۹۸۲
 ۱۹۸۳
 ۱۹۸۴
 ۱۹۸۵
 ۱۹۸۶
 ۱۹۸۷
 ۱۹۸۸
 ۱۹۸۹
 ۱۹۹۰
 ۱۹۹۱
 ۱۹۹۲
 ۱۹۹۳
 ۱۹۹۴
 ۱۹۹۵
 ۱۹۹۶
 ۱۹۹۷
 ۱۹۹۸
 ۱۹۹۹
 ۲۰۰۰
 ۲۰۰۱
 ۲۰۰۲
 ۲۰۰۳
 ۲۰۰۴
 ۲۰۰۵
 ۲۰۰۶
 ۲۰۰۷
 ۲۰۰۸
 ۲۰۰۹
 ۲۰۱۰
 ۲۰۱۱
 ۲۰۱۲
 ۲۰۱۳
 ۲۰۱۴
 ۲۰۱۵
 ۲۰۱۶
 ۲۰۱۷
 ۲۰۱۸
 ۲۰۱۹
 ۲۰۲۰
 ۲۰۲۱
 ۲۰۲۲
 ۲۰۲۳
 ۲۰۲۴
 ۲۰۲۵
 ۲۰۲۶
 ۲۰۲۷
 ۲۰۲۸
 ۲۰۲۹
 ۲۰۳۰
 ۲۰۳۱
 ۲۰۳۲
 ۲۰۳۳
 ۲۰۳۴
 ۲۰۳۵
 ۲۰۳۶
 ۲۰۳۷
 ۲۰۳۸
 ۲۰۳۹
 ۲۰۴۰
 ۲۰۴۱
 ۲۰۴۲
 ۲۰۴۳
 ۲۰۴۴
 ۲۰۴۵
 ۲۰۴۶
 ۲۰۴۷
 ۲۰۴۸
 ۲۰۴۹
 ۲۰۵۰
 ۲۰۵۱
 ۲۰۵۲
 ۲۰۵۳
 ۲۰۵۴
 ۲۰۵۵
 ۲۰۵۶
 ۲۰۵۷
 ۲۰۵۸
 ۲۰۵۹
 ۲۰۶۰
 ۲۰۶۱
 ۲۰۶۲
 ۲۰۶۳
 ۲۰۶۴
 ۲۰۶۵
 ۲۰۶۶
 ۲۰۶۷
 ۲۰۶۸
 ۲۰۶۹
 ۲۰۷۰
 ۲۰۷۱
 ۲۰۷۲
 ۲۰۷۳
 ۲۰۷۴
 ۲۰۷۵
 ۲۰۷۶
 ۲۰۷۷
 ۲۰۷۸
 ۲۰۷۹
 ۲۰۸۰
 ۲۰۸۱
 ۲۰۸۲
 ۲۰۸۳
 ۲۰۸۴
 ۲۰۸۵
 ۲۰۸۶
 ۲۰۸۷
 ۲۰۸۸
 ۲۰۸۹
 ۲۰۹۰
 ۲۰۹۱
 ۲۰۹۲
 ۲۰۹۳
 ۲۰۹۴
 ۲۰۹۵
 ۲۰۹۶
 ۲۰۹۷
 ۲۰۹۸
 ۲۰۹۹
 ۲۱۰۰
 ۲۱۰۱
 ۲۱۰۲
 ۲۱۰۳
 ۲۱۰۴
 ۲۱۰۵
 ۲۱۰۶
 ۲۱۰۷
 ۲۱۰۸
 ۲۱۰۹
 ۲۱۱۰
 ۲۱۱۱
 ۲۱۱۲
 ۲۱۱۳
 ۲۱۱۴
 ۲۱۱۵
 ۲۱۱۶
 ۲۱۱۷
 ۲۱۱۸
 ۲۱۱۹
 ۲۱۲۰
 ۲۱۲۱
 ۲۱۲۲
 ۲۱۲۳
 ۲۱۲۴
 ۲۱۲۵
 ۲۱۲۶
 ۲۱۲۷
 ۲۱۲۸
 ۲۱۲۹
 ۲۱۳۰
 ۲۱۳۱
 ۲۱۳۲
 ۲۱۳۳
 ۲۱۳۴
 ۲۱۳۵
 ۲۱۳۶
 ۲۱۳۷
 ۲۱۳۸
 ۲۱۳۹
 ۲۱۴۰
 ۲۱۴۱
 ۲۱۴۲
 ۲۱۴۳
 ۲۱۴۴
 ۲۱۴۵
 ۲۱۴۶
 ۲۱۴۷
 ۲۱۴۸
 ۲۱۴۹
 ۲۱۵۰
 ۲۱۵۱
 ۲۱۵۲
 ۲۱۵۳
 ۲۱۵۴
 ۲۱۵۵
 ۲۱۵۶
 ۲۱۵۷
 ۲۱۵۸
 ۲۱۵۹
 ۲۱۶۰
 ۲۱۶۱
 ۲۱۶۲
 ۲۱۶۳
 ۲۱۶۴
 ۲۱۶۵
 ۲۱۶۶
 ۲۱۶۷
 ۲۱۶۸
 ۲۱۶۹
 ۲۱۷۰
 ۲۱۷۱
 ۲۱۷۲
 ۲۱۷۳
 ۲۱۷۴
 ۲۱۷۵
 ۲۱۷۶
 ۲۱۷۷
 ۲۱۷۸
 ۲۱۷۹
 ۲۱۸۰
 ۲۱۸۱
 ۲۱۸۲
 ۲۱۸۳
 ۲۱۸۴
 ۲۱۸۵
 ۲۱۸۶
 ۲۱۸۷
 ۲۱۸۸
 ۲۱۸۹
 ۲۱۹۰
 ۲۱۹۱
 ۲۱۹۲
 ۲۱۹۳
 ۲۱۹۴
 ۲۱۹۵
 ۲۱۹۶
 ۲۱۹۷
 ۲۱۹۸
 ۲۱۹۹
 ۲۲۰۰
 ۲۲۰۱
 ۲۲۰۲
 ۲۲۰۳
 ۲۲۰۴
 ۲۲۰۵
 ۲۲۰۶
 ۲۲۰۷
 ۲۲۰۸
 ۲۲۰۹
 ۲۲۱۰
 ۲۲۱۱
 ۲۲۱۲
 ۲۲۱۳
 ۲۲۱۴
 ۲۲۱۵
 ۲۲۱۶
 ۲۲۱۷
 ۲۲۱۸
 ۲۲۱۹
 ۲۲۲۰
 ۲۲۲۱
 ۲۲۲۲
 ۲۲۲۳
 ۲۲۲۴
 ۲۲۲۵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第十七章

第二卷

Handwritten text in Urdu script, likely a religious or philosophical treatise, written vertically from right to left.

あゝいふはな

らんせとあまにまじりてらん信ぜらん

三 まゝあゝのうたまたまひーあゝと

Handwritten signature: *[Illegible]*

たひひつらんふあり
三
にきれらふありあ

[illegible]

Handwritten signature: *[Illegible]*

سید محمد علی

めんとなり西父よりえられたまひのハコをとり

耶穌のこころのちの門徒といふにキテロ
谷といふところなる園よりいふに
ユダのころとて耶穌とてその
ころといふところなるユダのころ
といふものなり祭司のころといふに
といふ松明といふとて武具といふに
といふ耶穌のころのころといふに
といふころのころといふに
といふ耶穌のころのころといふに
といふ耶穌のころのころといふに

のちろ士耶穌ペテロよりひけるハ我と云ふに、いふも、父の
心也。だまきーぢんぐりや^(マテ)のまぢんかんや、こゝに組
入しそのまじくとユダヤ人の小やくまん耶穌をくへてあど
もろまづられとアンナスよつてもくこれこゝの祭司の
まじカヤバの男^(ミカ)は、色^(イロ)バあり、昔ひそり民のこめに死され
ば、まじなりとユダヤ人よとせめ一人このカヤバなりま
シモンペテロと云ので、耶穌よといづくこの門徒祭司の
まじのまじなりものにあま耶穌ともた祭司のまじ
の庭よりぬきペテロハ門のまじなりは祭司のまじの

第一章

卷一

卷一

[illegible]

けり。されど、我々の罪を赦すため、神の御子、
 独り神の子として、世に降臨され、人々の罪を
 贖ふために、十字架に就かれ、死なれたる。
 されど、三日目に復活され、天に昇られた。
 今、我々の罪を赦すため、再び世に降臨され、
 我々を救はんとす。されど、我々の罪を赦す
 ため、再び世に降臨され、我々を救はんとす。
 されど、我々の罪を赦すため、再び世に降臨
 され、我々を救はんとす。されど、我々の罪を
 赦すため、再び世に降臨され、我々を救はんと
 す。されど、我々の罪を赦すため、再び世に降
 臨され、我々を救はんとす。されど、我々の罪
 を赦すため、再び世に降臨され、我々を救はんと
 す。

三十一

ヒラト、マニラの王と十字架よびんや
 いふ祭司のまゝに、カイズルのやうな
 王ありまふといふと十字架よびんや
 なるやうな王と十字架よびんや
 十字架とちやうど、ヘブライの
バコルゴダといふやうな王と十字架よ
 びんや、マニラの王と十字架よびんや
 人の王、ナザレの耶穌とあるやうな
 王と十字架よびんや

神の御名に、
 父と子と聖霊と、
 共に栄え、
 共に御国を
 治め給へ。

ためよこころ渴かわありといふ元もとに醋すのちみちくみ
おれーハはつものも海うみ絨じやうと醋すよーさるたつりて
その口くちよあふふ耶や穌そ醋すとらひーのちみちくみ首くび
とれて靈たまとつさるさる三日さんの日ひままのちみちちみち(日ひあつた)
安息あんそく日ひよ尸しかばねと十字架じうじかのううよよととよよととめめににウウヤヤ
ペペピピララトトよよのあーとよと尸しかばねとさるさるちみちくみ
いいちちななれればばのああそそくく日ひハハ大だい事じああ日ひああととババああつつてて
てていいの耶や穌そとといいに十字架じうじかよよのちみちくみよよと先せん
ここぞぞうう耶や穌そよよとといいててくくやや死しーーとといいててととのああーーとと

[illegible]

[illegible]

三二五

なりき耶穌イエスは天に上りて父にありて主と見又
天の神との御子にカダシの御子にありて主と見又
天の神との御子にカダシの御子にありて主と見又
天の神との御子にカダシの御子にありて主と見又
天の神との御子にカダシの御子にありて主と見又
天の神との御子にカダシの御子にありて主と見又
天の神との御子にカダシの御子にありて主と見又
天の神との御子にカダシの御子にありて主と見又
天の神との御子にカダシの御子にありて主と見又
天の神との御子にカダシの御子にありて主と見又

よき人々に信ぜしむ。一日のうちにその門徒又
家のうちより出てトマスと他の十二人の戸を
叩きし。耶穌はひいてその家に入りて坐す。彼等
といひてトマスは如何なるお告めをいふに
トマスを見なんぢの手をひきて信ぜしむ。こ
ろして信ぜしむトマスといふに如何なる主
とぞ神と云。耶穌は如何にいふにみよ
よして信ぜり見ざる信ぜざるの福なり。耶穌その
門徒のまへに坐していふに如何なるお告めをいふに

あーとあせつていづる耶穌ハ神の子キリストと信ト又
信じてその名よりていづちあんなたはまのいふとある
こと

第二十一章

いづち耶穌まゐのれとティリアのいづみと門徒
とあつちなりあつちと左のこゝにシモンペテロと
子とらとトマスとガリラヤのカナのナタヘルとセザダイの子
といふといふ二人の門徒といふとあつちシモンペテロ彼
らといふといふ漁といふといふといふといふといふ

よそあるのうへにひきつけられまゝにひきつゝ炭火と又
そのうへにのせて魚と餅とを煮たり、耶穌も煮て食ひ
けり、いまこゝに記す所の魚すゝのちを煮れ、士ニハニハ
番のうへに魚百五十三尾おろひある魚と煮たりある
よそあるのうへにひきつけられまゝにひきつゝ炭火と又
耶穌も煮て食ひけり、いまこゝに記す所の魚すゝのちを煮れ、
あつたはひきつけられまゝにひきつゝ炭火と又
主ありて煮たり、耶穌も煮て食ひけり、いまこゝに記す
よそあるのうへにひきつけられまゝにひきつゝ炭火と又

[illegible]

よき耶穌のむすこや主よ
いひ門徒ありペテロといひて耶穌よりひげの
主や人のいふせん耶穌よりひげの
が
よき人のいふせんやんぢのいふせん
よきそので死あむといひて兄弟のうちに
出づ
られ耶穌ペテロといひて死あむといひて
よき人のいふせんやんぢのいふせん
よきそので死あむといひて兄弟のうちに
出づ
られ耶穌ペテロといひて死あむといひて

本書の底本としては、山梨英和短期大学「門脇文庫」所蔵本
を使用させていただきました。

近代邦訳聖書集成⑬ 新約聖書 ^{ヨハネ} 約翰伝

1872年 原本発行
1996年8月13日 第1刷印刷
1996年8月23日 第1刷発行

J.C.ヘボン 訳

発行者 荒井秀夫
発行所 株式会社 ゆまに書房
〒101 東京都千代田区内神田2-7-6
電話 (03) 5296-0491 (代表)
振替 00140-6-63160

印刷 互惠印刷株式会社／製本 東和製本株式会社
